

漢字と見栄と体面

渋谷 繁樹

韓国で古本屋に入ると、仏典、歴史書、漢字の書籍が、ホコリをかぶっている。漢字を捨ててハングルに絞った国だから、ある年代以降は漢字が読めず、漢字の本は商売にならない。買ってもいいのだけれど、漢字も排斥一辺倒はまずいのではないのか、にっくき中国の発明品とはいえ読めるにこしたことはないのではないか、となった場合、我が国の文物を持ち出したと言われるのもオックウだから、勿体ないため息だけで済ませている。

中国でも書籍は買わない。ニセモノをつかまされてへコムよりは、無視するに限る。

韓国大統領が対日で真っ赤になっている。中国共産党は将来の権力層をどうするかで暗闘を展開している。韓国タバコは結構いけるし、中国でもマントウの類は買い逃さない。体面とか見栄とかはもっとうにもならない。家ではチヂミやお好み焼きの大統領とか何よりスシの好物の主席になる人材がいつか育ってくれるのを気長に待つしかないのかもしれない。